

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向関連	良く なっている	コンビニ（店長）	来客数の動き	・2～3月に比べて明らかに売上が増加している。また、経費の負担も少なくなってきた。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・客から不景気な話を聞くことがない。生命保険業の乗客は、むしろ良い状態であると話している。	
(東北)	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・天候に恵まれ、また、中心部の整備やイベント実施なども功を奏しつつあり、来街客の動きに伸びがみられている。それに伴い、飲食店、サービス業関連からは明るい話を聞いている。しかし、全体的には多少良くなったものの、一部の物販関連に厳しさが苦慮している様子である。	
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が徐々に増えてきており、それに伴って販売量、単価共に良くなってきている。今月は天気が良く、外に出る人が多かったため売上がつながっている。	
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・前月に引き続き、布団の仕立て注文や、復興住宅関連の仕事が入っている。	
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年を上回っており、景気は上向きとなっている。	
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客は夏に向けての準備を始めている様子である。	
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は増加していないが、まとめ買いをする客が多く、客単価は良い状態である。	
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・4月以降、客が少しずつ動いており、悪いなかにも薄日が差してきている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会の受注量が例年より伸びており、若干景気が良くなっている。	
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	販売量の動き	・前年同期に比べて売上が15%増加している。また、来客数も増えている。	
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・非常に変化の無いべた凧の状態となっている。良くなっているが、悪くもなっていない、不思議な静けさである。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・バス路線変更や地下鉄新規路線開通などにより、来客数が激減している。
			一般小売店〔書籍〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク終了後の景気を持ち直し感が全くみえないまま推移している。それ以外に社会的な影響が予測できず、商品力を含めて点検をしているが、原因がよくわからない状況である。
			一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・販売量は横ばいで推移しているものの、高額商材の動きが鈍く、売上が伸びていない状況である。
			百貨店（営業担当）	販売量の動き	・化粧品など一部の商品の売上は前年を上回っているものの、3月くらいまで好調であったブランド品の動きが鈍くなってきており、全体的には前年の実績を下回っている。物産展のような催事も以前の勢いが無くなってきている。一方、五月人形などの際物については、前年を上回るなど堅調に推移している。
百貨店（営業担当）	お客様の様子		・気温が上がってきているものの、夏物の動きが鈍く、単価も低い状態が続いている。		
スーパー（経営者）	来客数の動き		・安定的に推移しているものの、既存店の来客数は微減傾向にある。		
スーパー（経営者）	単価の動き		・5月の1品単価は前月よりやや低下しているものの、買上点数は増えており、来客数は前年並みで推移している。このような傾向は強まっており、客の財布のひもは前月よりも固くなっている。		
スーパー（店長）	来客数の動き		・客単価、買上点数、1品単価は良くなっているが、来客数が減少傾向にある。		
スーパー（営業担当）	来客数の動き		・ゴールデンウィーク期間中の気温の影響もあり、来客数の伸び幅が減少してきている。北海道新幹線が開業したが、当地域は通過県のため、今のところメリットはあまりない。		
スーパー（営業担当）	販売量の動き		・5月の既存店売上は、前年とは天候などの条件が違うなかで、前年比101%の実績となっている。		
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き		・来客数の落ち込みは止まっているものの、回復までには至っていない。		
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き		・ゴールデンウィーク期間中は、来客数が前年に比べて20%ほど減少しており、それが売上に最後まで影響している。		

衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・暖冬の影響により、除雪業者や建設業者は大幅に売上が減少しており景気が悪い。そのため、作業服などの受注が極端に少なく、注文が無い状況である。
衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・今年のゴールデンウィークは日程が良くまとまっており、その分お金をたくさん使ってしまったのか、5月中旬以降は、現金払いが減ってカード払いが増えたり、余程の目的がないと購入しないなどの動きが例年以上にみられている。
衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・チラシのセール品だけは動いているものの、定価品は全く動いていない。
家電量販店(店 長)	販売量の動き	・5月に入り、エアコンなどの季節商材は前年同月を上回っている。しかし、テレビなどのAV機器やパソコンなどはやや低調であり、前年比95%程度の販売量となっている。全体としては前年並みの推移となっているものの、客の買換え需要はやや抑え気味である。
住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・今月の売上のほとんどが低単価商材であり、単価、売上共に低いままで推移している。小規模店の宿命である。
その他専門店 [酒](経営 者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークは思ったよりも人が動かなかった。週末の飲食はまずまずであるが、店頭での売行きがやや悪く、全体的に少し悪い状態となっている。
その他専門店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・ゴールデンウィークは大きな祭も開催されるため期待をしていたが、予想以上に観光客が少なかった。その影響で飲食店への販売量が前年より落ち込んでおり、さらに物産館などのお土産販売にも大きく響いている。その後も全体的に動きが鈍く、熊本地震や経済不安の影響を顕著に実感した月となっている。
その他専門店 [白衣・ユニ フォーム](営 業担当)	販売量の動き	・3～4月が予想以上に悪く前年を大きく下回っている。その状況のまま推移しているため、景気に変化はない。
その他専門店 [ガソリンスタ ンド](営業担 当)	販売量の動き	・暖冬の影響により暖房用の燃料を中心に販売量の減少傾向が続いている。加えて除染作業も一段落し、軽油の販売量も減ってきている。総じて販売量が振るわないため、末端の販売単価も安値傾向が続いており、収益を圧迫している。
その他専門店 [ガソリンスタ ンド](営業担 当)	販売量の動き	・販売量の減少傾向が継続している。
高級レストラン (支配人)	単価の動き	・今年の5月は例年と比較して来客数は増加したものの、客単価があまり伸びていない。客に外食をしたいという雰囲気はあるものの、食事の金額を抑えている様子がうかがえる。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月が特別に落ち込んでいるわけではなく、年単位で低調な状態が続いており慢性化している。そのため、景気が上向いているという感覚はない。
一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・例年よりも気温が高く天候の良い日が続いている。そのため、外出する人が多く外食に足を運ぶ人も増えている様子である。また、この時期は会合なども多く、それなりに来客数を確保できている。ただし、数字が爆発的に伸びているわけではないため、あまり変化はない。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・依然として地方の景気は良くない状態であり、来客数が伸び悩んでいる。
観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・多少の変動はあるものの、前年同様の動きである。また、来客数及び客の様子からも、相変わらず景気の上向き感はずかえない。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・披露宴が多いと一般宴会にも伸びがみられるが、披露宴が伸び悩み、一般宴会も今一つという状況が顕著にみられている。
旅行代理店(店 長)	来客数の動き	・熊本地震により、気分的に旅行を控える傾向が若干ではあるがみられている。
旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・熊本地震以降、国内は個人客の予約取消、団体客の方面変更などにより、販売量全体がやや減少している。

	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ここ最近、地方活性化に伴う雇用創出の情報がさっぱり聞こえてこない。計画策定をしたものの実行されていないのではないか。また、大手自動車メーカーの燃費不正問題が明るみに出て、国産車の売行きも下降している様子である。さらに企業が投資を控えているため、景気状況に変化はみられていない。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量はほぼ横ばいで推移している。
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・顧客の設備投資意欲に変化がみられていない。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・春のキャンペーン効果も落ち着いており、新規加入客がなかなか増加しないまま推移している。ただし、解約者も増加していないため、全体的に大きな変化はみられていない。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客との会話からは特に変化はみられていない。ただし、消費税増税の再延期が決まったので、今後は雰囲気が変わるかもしれない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前から、客単価が若干上昇しつつも来客数が減少しているという状態が続いている。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・書き入れ時のゴールデンウィークに雨が降り、その時の落ち込み分が大きく、尾を引いている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ4か月ほど、来客数は横ばいであり前年比100%前後で推移している。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・販売量が安定している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・東北地方では雪解けが例年よりも早く、3月は春物の動きが活発になった。しかし、4～5月は非常に中途半端な時期であり、春物の動きは終わったものの夏物にはまだ早いという状況になっている。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数の前年比が20%近く減少しているが、客単価がやや上昇しているため、全体的な売上は7%程度の減少に留まっている。これは、単価の低い客層の来店頻度が落ちており、店頭の上売が経済的に余裕のある客層に依存しているためである。現状では幅広い客層から安定した売上を確保することが難しくなってきている。
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・中間顧客層だけではなく上位顧客層においても単価の低下傾向がみられている。
	百貨店（総務担当）	単価の動き	・衣料品よりも食料品を購入する客が多く、単価が下がっている。
	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年比マイナスで推移しており、売上も減少傾向が続いている。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・客の買物の仕方、流行を追わない慎重さ、気温の影響など、様々な要因により夏物の動きが鈍くなっている。
	百貨店（経営者）	販売量の動き	・来客数に変化はなく、食料品も堅調に推移している。しかし、宝飾品、時計などの高額商材の動きが鈍く、客単価が大幅に減少している。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・最近は大手を始めデフレ化が進んでおり、チラシ価格が低下している。それにより客の買い回りが増加している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・4月の来客数は前年を上回っていたが、5月は前年比100%で推移している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が3か月前と比べて10%ほど落ち込んでいる。月前半、特にゴールデンウィークの天候不順の影響に伴う落ち込みが大きく、後半で取り戻せていない状態である。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回りつつある。また、1品単価も下がっているため、売上も減少気味になっている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの天候が悪かったため出足が鈍く、その後も連休の疲れが出ているのか、客の動きがかなり鈍っている。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・例年この時期は毎週末ごとに売上が増加する傾向があるが、今年はそのような傾向がなく、ゴールデンウィークも悪天候により、あまり売上が伸びていない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月に続いて5月も来客数は大幅な前年割れとなっている。特に5月は前年比が4%下回っている状況である。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競争環境の激化と天候のマイナス要因により、やや悪い状態となっている。	

	コンビニ（店長）	単価の動き	・例年ゴールデンウィーク明けは売上が落ち込むが、今年は連休が長かったせいか、大分お金を使ってしまった消費者が多いようである。日々の食費やその他を節約する傾向が強くみられている。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新規客の来客数が徐々に減少してきている。また、顧客に提案をしているが、購入意識を高めることができていない。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・明らかに販売量が前年実績を下回るようになってきている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体の4～5割を占めている軽自動車の主力車種が販売停止となっているため、販売量がかなり落ち込んでいる。
	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売量が前年比80%とやや落ち込んでいる。
	その他専門店【靴】（従業員）	販売量の動き	・気温が上がってきてはいるが、特に夏物の動きが悪く、それ以外の商品の動きも鈍い。原価高の影響もあり、販売価格を値上げせざるを得なくなってきたが、客の金額に対する感覚は更に厳しくなっている。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・人件費なども徐々に値上がりをしているため、客単価を高く設定している。そのため、来客数が減少している。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が目標値を超える日が月に2回程度しかなく、景気は悪くなってきている。
	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークがあまり良くなかったことに加えて、連休後も回復せず最悪の状態となっている。後半に少し盛り返した感があるものの、全体的にみるとあまり良いとはいえない。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前後、特に連休後の来客数が悪い状態である。さらに、G7仙台財務大臣中央銀行総裁会議関連の影響で、開催期間とその前後数日間は一般の客が敬遠して来客数が減少している。
	観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・今年のゴールデンウィークは、高い価格設定にできる日が前年よりも1日少なくなっており、単価が下がっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・G7仙台財務大臣中央銀行総裁会議の厳戒警備体制の関係で、宴会、レストラン、宿泊共に来客数が極端に減少している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前月から下降気味に推移しており、来客数の前年比も大幅に落ち込んでいる。また、予約についても伸び悩みの状態が続いている。
	旅行代理店（経営者）	単価の動き	・復興関連の企業に落ち着き感があり、今までのような特需は無くなっている。それによって普段の生活に戻っているため、単価が若干低下している。それがそのまま販売量にも結びついている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・前年12月の地下鉄新規路線開通の影響が大きく、売上が3割ほど落ち込んでいる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーに乗る客が少ない。以前は年配者が通院のために利用していたが、現在は全くそのようなことがない状態である。
	遊園地（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに天候が崩れ、その影響による落ち込みをばん回できておらず、来客数が前年を8%ほど下回っている。また、単価も微減傾向にある。
	競艇場（職員）	来客数の動き	・ここ最近では、来客数が急激に減少し始めており、売上についても、前月と比較すると少し下降気味になってきている。
	その他住宅【リフォーム】（従業員）	販売量の動き	・前年のエコポイントによる反動減が表れている。また、来年の消費税率10%への引上げに対して追い風が吹く気配も無いことから、前年に比べて問い合わせ件数が3割近く減少している。
悪くなっている	一般小売店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは人も出も多くなかなか良い状態であったが、中旬以降からは途端に来客数が減少している。来客数、売上共に前年比10%減となっており、非常に悪い状態である。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・暖かくなって人が動き始める時期にもかかわらず、来客数が回復していない。来客数は前年比マイナス11%であり、それに伴い売上も12%減少している。このような状態が前年の後半から続いている。ただし、キャンペーンなどの効果もあり単価、買上点数にそれほどの落ち込みはみられていない。

		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・熊本地震による自動車生産への影響、風害による納車前新車へのダメージ、大手自動車メーカーの燃費不正問題に伴う軽自動車の販売停止などが重なり、空前の販売量減少となっている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量が極端に減少している。受注残が無いということも関係しており、2～3か月前と比較しても1割程度の販売量となっている。
企業動向関連	良くなっている	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度をまたいで発注されている中央官庁の大型公共工事などは、受注者が確定してきている。
	やや良くなっている	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・荷主によって物量の増減があるものの、全体的な動きは良い状態である。
(東北)	変わらない	農林水産業（従業者）	それ以外	・農機具メーカーの話では、春の農業機械が前年と同様の売行きとなっている様子である。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客単価などに変化がない。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と変わらず、販売量の前年割れが続いている。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の価格低迷により、収益的に厳しい状況が続いている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・連休の多い5月は、毎年売上が落ち込む月である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体製品全体の価格が徐々に下がっている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干増加しているが、それほど大きな変化ではない。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。
		輸送業（従業員）	取引先の様子	・主力商品の出荷遅れにより、売上が停滞している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の継続契約案件において入札が定例化してきているなかで、なんとか受注量は増加傾向にある。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・投資よりもコストカットに重きがおかれている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・円高、株安の影響から、個人投資家は様子見の状況が続いている。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価は相変わらず低下傾向にある。企業の広告費に掛ける比率が下がっている様子である。
		司法書士 公認会計士	取引先の様子 取引先の様子	・不動産取引件数の横ばい状態が続いている。 ・建設関係は売上などが減少しているものの、利益を確保している企業が多い。また、小売業関係も売上の減少傾向が続いているが、一定の利益は確保している。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	取引先の様子	・取引先の話では、来客数は依然として横ばいで推移しているが、1品単価、買上点数が1割程度減っている様子である。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・ドル円為替が120円を割り、日経平均株価が18,000円を下回り始めた年明け以降、消費意欲が低迷しているのか、販売量が低調に推移している。
		その他企業 [企画業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、受注量は横ばいで推移しており、前年比でも変わらない状態である。
	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・燃料代が上昇傾向にある。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの売上が前年を大きく下回っており、今月はそのことが全体的に大きく影響している。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・次から次へと自然災害があるため、消費者のマインドが上がらない。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の売上は前年を上回っていたが、今月は前年の売上を下回っている。
		広告業協会（役員）	それ以外	・5月は広告業界最大のイベントである全国広告連盟会議が地元で開催され、新聞社は増収につながったようである。しかし、テレビ局はあまり影響がなく、下旬には広告の空き枠が多くなっている。また、折込広告なども依然として回復はしていない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・近郊の観光地では、G7仙台財務大臣中央銀行総裁会議関連による消費の向上を期待していたが、それほどでもない様子である。

		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較しても売上が3%ほど減少しており、前年並みの売上を確保するのにもひと苦労している。
	悪くなっている			
雇用関連 (東北)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・派遣契約の満期終了は年度末である3月が多く、4月は前月比マイナスの状態からのスタートとなるのが通常である。しかし、今年はそのような落ち込みを回避しており、4月は前月比プラスからのスタートとなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年であれば、新卒採用者の配属直後で派遣ニーズが落ち着く時期である。しかし、今年は3月をピークに下降傾向にはあるものの、4月下旬～5月に入っても企業からの派遣ニーズが継続している印象がある。
変わらない		人材派遣会社（社員）	それ以外	・建設関連企業、外食、レストラン事業を行う企業の、中途採用の求人に対する応募者数が相変わらず少ない状態である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数は下げ止まりの傾向にあるが、求人とのミスマッチが多く、売上増加につながっていない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人動向は横ばいで推移している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数については堅調に推移している。今まで人材紹介の活用などコストをかけた採用をしてこなかった企業からも、募集に関して相談がきている状況である。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・今月は仕事が減少しているが、例年どおりの動きである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月はG7仙台財務大臣中央銀行総裁会議が開催されたが、周辺地域としてはホテルだけではなく、流通などにもお金が落ちると期待をしたが効果が無く、景気の盛り上がりには至っていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比の増加が続いていたが、今月は減少に転じている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・飲食業、販売業、建設業など、特定の業種からの求人は増加している。しかし、求職者数が減少傾向にあり、応募者がいない状態が継続している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者は前年同月と比較して10%以上減少しており、そのなかで在職求職者の割合が45%を占めている。求職者の動きは、在職求職者が多いことからゆっくりにしている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に、前年同月比がほぼ横ばいで推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が11か月ぶりに前年を下回っており、月間有効求人数の増加も6か月ぶりに前年比が2けたから1けたになるなど、求人数に減少感がでている。しかし、求職者数も微減傾向が継続し、有効求人倍率は9か月連続1.1倍台以上で推移していることから、景気が悪くなっているとまではいえない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数は前年と比較して3か月連続で減少し、新規求人数も減少が続いている。ただし、求職者も引き続き減少傾向にあるため、状況に大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、月間有効求人数は、ある程度の水準で推移しており大きな変化はない。また、有効求職者数の減少傾向に伴い、有効求人倍率は高水準で推移しているものの、明るい兆しはみられていない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・人手不足感が強まっている。業種や事業規模による差はあるものの、欠員補充の困難、人件費の上昇、事業計画の見直しなど、その影響は大きい。
	悪くなっている	-	-	-